

「女らしさ・男らしさ」とは……。

田上 義子

男らしくとか女らしくと言う言葉は、私は好まずけれども、どんなにある事が男らしくあり、女らしくあるかと言う事になると、えは考えさせられるようです。特に男性から言う女らしさとは何かとさぐって見ると、どうも男性は、自分の都合のよい人形のように美しく、思うように動かすことの出来る女性を女らしくと見てゐるのだと痛感します。或る男性友人との時、友人の職場に出たが、婦人活動等に対して、男性は、大へん物わかりの良い発言をしはがらう、さて、自分の妻のこととなると、全く反対で、妻は腹にあり家を離れ、子供の面倒を見、主人である自分に仕える女であつて欲しいと言ふのが本音である事を知らけ出しました。思はず言葉しました、我が家のあるじも夜間何も言わないけれど、腹の中ではどう考えているかしら。

藤原 敏子

社会的には性による差別は無い前提で書きます。

男女がそれぞれ、……らしさを持つことは美徳とおもいます。しかし具体的にそれはコレコレとあげてもはじまらない。なぜならひじょうに個人的なものであり、人間関係やいろんな状況によつて変化するものだからです。私としてはこの複雑・微妙にして、良いものを観念的に促えるのを好まず、大切なことは、人間として荒廃しないよう、努めることが肝心と思つてゐるのです。

後藤 ヤス子

「男らしさ」「女らしさ」を全く否定はしないが、「女らしさ」という言葉の中には、女が男と肩をならべて主体的に生きて行こうとする時、芽をつみとるような、又、男中心の社会を堅持していくのに都合の良いようなものがひそんでゐるので、一方的に押しつけられると、イヤな言葉である。

子供を育てていく場合、特別意識して、「男らしく」「女らしく」つける必要はないと思う。

佐藤 浩子

女らしさ・男らしさについては全くわかりません。以下この理由を述べます。

この「女らしさ・男らしさ」という言葉について考えはじめるといつも頭がいなくなる。いろんな人がさまざまな言葉で表現する。「女らしさとは、



「素直だ」「ひかえめなこと」「男らしくさは強さだ」「たくましくさふ」「せし。でもひねくれ者の私はいつもうるさくしてしまふのだ。男の人はやさしくなくていいのかな？ 素直でなくていいのかな？ 女は強く生きてはいけないうか？」そして行きつくところ——女も男も変わりはない。同じ人間なのだ。美徳とされているものがあるなら、それは同性に共通であるはずだ。

同じく、でも現現のしかたがちがうのかもしれない。でもその中に社会通念が、またその人の置かれた立場に起因するものが、果たしてどれくらい占めていることだろう。

ある人がこう言った。「例えば、保育所には保育士さん、病室には看護婦さんがいんだ。なぜなら、配慮の細かさは、女の人の方が、絶対すぐれていると思うから。そこでひねくれ者はこう思うのだ。「それは果たして、女という性がさせるのか、それとも教育の産物であるか。誰にわかるというのだろうか？ 無意識のうちにとり入れられていくはずの社会通念、歴史的背景によって考慮する必要があるはずだ」そして判定は下る。「女らしくない人だ。しつこく考えて、なまめなさん、女らしくってなんだろう。」

### 岡本富子(談)

サ——として表面的なことではなく、さういふやうにやさしさを思ひこみ、男らしくさういふのも同じ。

## 「老いること」

松崎澄子

友人が二、三人集まると、いつか話は幕の不調を言い合っている。そこに老を感じる。

秋の老人の日を中心に、新聞、テレビは一時にぎわう。年行事化した感がある。

私の年代は米国式に老後は、経済的にも生活態度も自立した生活をせねば、と思っているが、東洋的に子供との同居も亦悪くないと思う。独立して暮らすのは自由だが、孤独との戦いがある。同居して暮らすのは、気楽な自由を束縛するし同調、気配りが必要となる。或いは労働、経済奉仕も、精神的なことは独立して暮らし、不自由には、たゞ同居をと、身勝手なことが許されるのなら、これにこしたことはない。唯、病気で気配りな老人と、突然ある日から同居して世話をする立場の者の身になって考えると、ヤリキレスだろうなと思えてくる。どうちとも決め兼ねていくうちに、年だけと、ていく。

自分自身のこともこれだから、いろいろな層の老人達を対象に、老人問題として、その対策、処理を考えるとすると、老人は人間でなく物として考えぬとその解決への糸口がつかめぬと思うし、従って形式化して来るのは止むを得ない。年中行事化するのも当たり前と結局ドウトリ廻りである。

老人の日などの福祉施設へのボランティア活動は、記事、テレビ等でみると、盛人になって来ているようだが、これは一種の自己満足の様にも思える。施設への奉仕でなく、一人一人、

個々の人間が、日常生活の行為の中で、他人への思いやりとか、その人なりの援助行動をしてゆく。それが、どんなに小さく、人目につかぬことであっても、永続してこれがなされていけばと思う。ボランティアとはそんなものと思ひがある。

老人になるとは、環境、地位に個々の差が大きくとも、結局は年毎に力を失ってゆく人間のこと。ハッキリと他にも己にも目に見えて弱くなつてゆくことを、示さざるを得ない人間である。

仏教では衰へることを常態であると謂う。そう考えることで、近づく老を平静に受け止め得られるのか。老いて尚、変わり続く自分の行方に、対応できる力があれば話は別だ。老人問題は悪いと思う。なるようになるさと言いき直して今は生きてゆくだけ。

望み得るはある時期、自分の意志で苦痛を伴わず、生を中断することか公然と許さなければと秘かに思っている。

## 「老人介護のための施策を」

吉村和美

女性の肩にかかると家庭負担が障害となって、家庭と職業との両立が難しく、職業に就くことを希望しながら就けないでいたり、または就いていても途中でやめざるをえない女性が多い。今まではその障害の最大のもの「育児」と考えられていた。そのため保育所運動がおり、育児の社会化、其同化のための努力がなされ、それは着実に定着して行き、若い母親が社会に進出する可能性は増大した。

しかし、今まで見過ごされてきた問題として、育児と同様、職業との両立を大変困難にしている家庭負担として老人介護の問題がある。

「育児」の場合は、子どもは日増しに成長するから、親の手も次第にからなくなるという明るい見通しが持てるのに対し「老人介護」の方は、大抵の場合、悪い方へ向う場合が多い。また期間も定まらず、長期に及ぶ場合もあるのである。

私の知っている限りでも、職場でもう二十年近くも働き、ベテランといふような人々が「老人介護」のためにやむなく職を去らなければならなかった例が二、三ある。

女性の若年定年が常識のように思われていた時代には、三、四十代の女性が職を去っていくことはそう問題にはならなかった。その上、それらの人々が職場に入ったころは、女性が外で働くことに對する偏見は想像以上に強く、また保育所などなかったから、その年々まで働き続ける人はごくわずかであり、わがために辞める理由の重要さは見落されて来た。

しかし、これらの人々は働き続けたのに、また仕事のために十分持っていたのに、女性に期待された家事責任のためにやめざるを得なかったのは事実である。

保育所が次第に拡充整備され、育児と職業との両立の問題が解決され、職場における男女平等の条件がととのつてくると女性性が四、五、六十代、それ以上まで働き続ける時代が来るであろう。そうした場合、育児期の困難をやつこのり越えた女性がいよいよこの困難のために職を退かねばならないということに



もなりかねない。

現在でも、老人を抱える中年期の女性は、老人が寝つきでもしたら、自分の職業はも早送りしなければならないのではないかと不安をかかえているのである。

その解決のために、早急に、社会的な老人医療施設の拡充と、家庭に必要とされるホーム・ヘルパー制度の確立という両面からの施策が求めらる。ヘルパーはたとえ職場ごとにプールしておくか地域ごとにプールしておくか検討の余地はまだ多いが、老人介護のためばかりでなく、家庭内の病人看護の場合にも適用できるような方式が望ましいと思う。

(婦人問題懇話会会報 No. 29 女性の労働確立のために解決すべき問題—というアンケートの回答より抜粋—)

### 事務局便り

長崎婦人少年室主催「婦人問題懇話会開催」趣旨「国連婦人の10年中間年にあたり、国連婦人の10年、1980年世界会議における決定事項を受けて、地方公共団体をはじめ関係行政機関・団体等が、国連婦人の10年後半期に向けて、どのような活動を行うかを検討し、これらの諸活動を効果的に行うことを促すものとする。

日時—昭和55年12月17日(水) 13時〜16時  
場所—長崎合同庁舎6階会議室

(長崎市岩川町16-16) ☎ 44-43884

★11月例会の「本島市長をこんなで話し合おう」はいかかでしたか? 皆さんの意見感想を事務局までお知らせ下さい。

★新会員、花房智子さん、道上美枝子さん。

★岸本桂子さんに未来会員誕生(おかしなスナック)

★ハティフリーガン「新しい女性の創造」(三浦富美子訳) 菊田玲子さん推薦。

★長崎県婦人対策室から「国連婦人の10年中間記念婦人の地位向上を目指すボスター原語作文募集」が入選。津田尚美、婦人の社会参加(作文)

★会費後期(55年9月5日〜56年3月まで)納入を!

★会費係 児野美晴さん

★退会なさる場合は必ず事務局までご連絡下さい

★近々新しく名簿を作ります 住所、氏名等の変更は至急お知らせ下さい。

★新会員募集...文化講演会と会報による募集(月200円半額1200円)市外在住の方もお誘い下さい。